

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部義肢装具学科

名前 野村 知広

作成日 2024年2月26日

【責任】

義肢装具学科に所属し専門科目である義肢学や工学分野、研究法に関する教育活動を行っている。講義以外ではゼミ生の義肢やプログラミングに関する卒業研究指導や障がい者スポーツ普及を目標とした学生活動支援、オープンキャンパス等を通じた義肢装具士の広報活動および大学のカリキュラム外での国家試験対策講義を行っている。

【理念】

- 国家試験に合格してもらうこと。
- 患者様の利益を確保するために、知識・技術はもちろんコミュニケーション能力が必要であり、特に以下2点が重要と考え指導すること。
 - ・製作した義肢装具の目的及び使用方法を患者様に理解してもらう
専門用語を自分の言葉に変換してわかりやすく話せる。
 - ・よりよい義肢装具の提供を目指す
3次元動作解析装置等を使用した計測結果から製作物の評価ができる。
- 卒業後、義肢装具をより深く学び、研究活動を行う人材を養成すること。
- 義肢装具業界を好きになってもらい、積極的に知名度を高める活動をしてもらうこと。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために重要なのは、最低限の基礎知識（解剖学、運動学等）の定着と、応用分野（義肢装具学）の過程を含めた理解である。学生には絵図よりも動画や実際の障がい者歩行を見ることを重視させ、また教科書に記載されている現象が起こる原因についても深く考えると共に、分からなければすぐに質問に来るよう指導している。

・基礎知識の定着

専門用語の暗記が主となる。普段の会話から、代名詞を用いずに筋肉や骨の名称を言わせるようにしている。また、実際の動きを見た際にも「すごい」「歩き方がきれい」といった漠然とした表現を使わずに、どの部分のどのような動きが何なのか、はっきりと述べるよう指導している。

・過程を含めた理解

理論では国家試験に出る部分を抽出して講義を行っている。その際絵図だけではなく、実際の製作物に触れて動かしてもらい、体験できる部分は可能な限り体験してもらうことで直感的に理解してもらえるように講義を行っている。また、実際の義足使用者に來校

していただき、義足歩行と健常者歩行の違いを目で見て学んでもらえるような講義を行っている。実習では改善点を指摘したうえで、同じ製作物を何度も作らせることで、技術の理解を深めてもらえるようにしている。

- ・原因について深く考える

上記の代名詞を使わせない、漠然とした表現を用いさせないことはこの方針にも当てはまる。加えて、学生からの質問や研究指導において、簡単に答えを示さないようにしている。学生には、「どうすればいいですか？」ではなく、「～だと考えているのですが、これで大丈夫ですか（合っていますか）？」等、必ず自分の考えを述べるよう指導している。その際、失敗の可能性があったとしても実行させてみて、いざ失敗した場合は原因について考えさせる。

【成果・評価】

- ・担当している講義において、授業評価アンケートでは高評価を得ている（授業評価アンケート結果）
- ・前任者と同じ課題や小テストを実施した際、平均点が向上している（テスト結果）
- ・国家試験において、担当分野の得点率が向上している（国家試験自己採点結果）
- ・ゼミ配属志望者が定員をオーバーしている（ゼミ配属希望アンケート結果）
- ・学生から直接、「もともとは興味がなかったけれども、授業を受けて理解が進むと大変面白い分野だと感じた」等のコメントをもらった
- ・ゼミ生から、大学院進学者を輩出している（歴代ゼミ生進路決定通知）
- ・学生活動では、4年連続夢プロジェクトに採択されており、札幌ドーム等でイベントを実施した（夢プロジェクト実施報告およびイベント用チラシ）

【目標】

- ・短期目標

ゼミ生から、研究者志望または臨床家になっても論文執筆を行ってくれる人材を育成すること（2025年度）

国家試験合格률을、全国平均以上を維持すること（2024年度）

- ・長期目標

国家試験合格률을 100%にすること

多数の大学院進学者を育てること

義肢装具士志望者を全国的に増やすこと